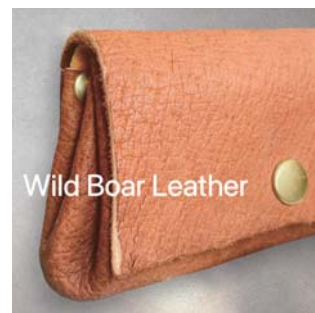


地域を変える POWER!!

地域おこし協力隊

のまち えりか
野町 絵里佳さん



肝付町の皆さまこんにちは！
地域おこし協力隊の野町絵里佳です。
この記事が出る頃には暑い暑い夏になっているのでしょうか。昨夏、家探しに訪れた際は南国の方が関西より断然涼しい事に心底驚きました！台風は少し怖いけど、鹿児島島の夏はとっても過ごしやすいです！
今回はイノシシレザーについてのお話なのですが、1回では書ききれない内容になってしまったため8月・9月と2回に分けて書かせていただきます。
日本でジビエは、主に食肉やペットフードとして活用されていますが、最近ではレザーとしても注目されています。

その中でもイノシシレザーは、ヨーロッパにおいて牛革やクロコダイル革に並ぶ高級素材として取引されており、『孫の代まで継ぐ革』として祖父が愛用していたイノシシレザーのカバンを孫のお財布に作り変えるほどその革は強く、単なる革製品としてだけでなく財産として認知されているようです。日本では昔、火消し（消防団）がかる頭巾にも使われていました。

イノシシレザーは、◎牛革に比べ5〜10倍長持ち◎とても軽い（牛革の3分の2の重さ）◎摩擦・引っかき傷に強く丈夫◎特徴である「三つ星の毛穴」が水分を素早く蒸発させることから非常に水に強く水跡やヨレが起きにくい◎ツヤが出やすく人の皮脂成分に近いので、触ってあげるだけで自然とお手入れになるメンテナンスフリー、といった特徴があります。

訪れた工房で実際に猪の革に触れた感触としては、思っていたよりも柔らかく感じましたが、おそらくなめし方次第で質感は様々な変化をするのだと思います。

食肉加工施設を作るのはハードルが高いけれど、廃棄される皮をイノシシレザーとして生まれ変わらせる事なら今の私にもできるのではないかと、レザーの取り組みを始めたものの…まさかの展開が待っていました。続きは9月号へ…。

写真は、先日購入してきたイノシシレザーのお財布。どんな経年変化をしていくか今から楽しみです。

CIR トウの ベトナム探訪

Hãy cùng khám phá Việt Nam nhé!



ベトナム人を初対面で年齢が聞ける理由

ベトナムでは、初対面の人同士でも年齢を尋ねることがよくあります。外国人にとっては少し不思議に感じられるかもしれませんが、その背景にはベトナム語特有の呼称文化があります。

日本語では、相手の名前に「さん」を付ければ、多くの場面で自然に会話ができます。しかし、ベトナム語では相手との関係や年齢差によって呼び方が大きく変わります。そのため、会話を始める前に相手の年齢を知ることが重要になります。

ベトナム語には、日本語の「私」や「あなた」のように誰に対しても使える言葉がありません。代わりに、家族の呼び名をもとにした呼称を使います。例えば、自分より少し年上の男性は「Anh（アイン）（兄）」、年上の女性は「Chị（チー）（姉）」と呼びます。反対に、自分より年下の人には「Em（エム）（弟・妹）」を使います。さらに年齢が上の人に対しては、「Cô（コー）（おばさん）」「Chú（チュー）（おじさん）」「Bác（バック）（年配の方）」などの呼称を使い分けます。

これらの言葉は相手を呼ぶときだけでなく、自分自身を表すときにも使われます。たとえ血縁関係がなくても、年齢が少し上なら「兄」や「姉」、年下なら「弟」や「妹」のような感覚で呼び合います。そのため、ベトナム人にとって年齢は単なる数字ではなく、相手との関係を築くための大切な情報のひとつです。誰をどのように呼ぶかによって、礼儀正しさや親しみやすさが表現されます。

近年は若者同士の会話で呼称が簡略化されることもありますが、年齢を基準にした呼称文化は今でもベトナム語の大きな特徴です。ベトナム語を学ぶ際には、単語や文法だけでなく、この独特な呼称文化を理解することも重要だと言えるでしょう。

このように、ベトナムで初対面の相手に年齢を尋ねる習慣は、ベトナム語の呼称システムと深く結びついています。言葉の使い方にはその国の文化や価値観が反映されており、ベトナム語の呼称文化もまた、ベトナム社会の人間関係の特徴づけ興味深い要素のひとつです。